

国保料 引き下げを実現 市に「高い」と認めさせる

国民健康
保険料

「高い」引き下げを！

さらに熊谷市議と共産党は、市民団体とともに、引き下げ署名にとりくみ、かつてない26万筆の署名を集めて国保料の引き下げが実現しました。

福岡市では保険料が高すぎて払えず、保険証をとりあげられ、医者にかかれな
い悲劇が続出。なのに西区選出の市議は
誰も引き下げ質問をしません。熊谷市議
は初質問で引き下げを迫りましたが、は
じめ、市は頑強に拒みました。

しかし、西区に共産党議員が誕生した
ことで福祉を議論する第2委員会に共
産党から2名出られるようになり、熊谷
市議が審議に参加。



熊谷市議が市側に「高い」と認めさせる重要な答弁をひきだしました。運動と議会を結ぶかけがえのない議員です。(有馬精一・国保をよくする福岡市の会事務局長)



国保料引き下げを街頭で訴える

西区から共産党の熊谷あつ子が市議になったことで…

市政を動かすチカラ、大きく

「あなたを選んでよかった」と住民の方から言われたとき、身が引き締まる思いでした。(熊谷談)

「こども病院人工島移転見直し 新市長が「白紙から検討」を公約

こども病院が人工島に移ってしまうと西区は救急医療で重大な支障がでるおそれがあるのに、以前は西区の市議は全員移転推進。熊谷市議が西区で初めて移転でなく現地建て替えを主張する議員となり、議会内外で奮闘。新市長が「白紙から検討」を公約し、再び事態が動き出しました。



こども病院の人工島移転反対の署名の先頭につってきました

現地建替えに全力！

にんげん・熊谷あつ子 インタビュー

熊谷あつ子のくじけない情熱…その原点は

3人の子育てしながら 市民要求実現に16年

熊谷さんが市民の願い実現へ市議をめざしたのは16年前ですね。

熊谷 はい。当時3人の子育てをしていて、市議の話がありました。

当時PTA、生協、女性団体(新日本婦人の会)の活動をして、通学路の信号機の時間延長や学校の施設調査をしてきましたし、多くの生活相談活動を通じ、絶対に政治を変えなくては、と肌身で感じていました。それから16年がんばってきました。



子育ての時代

高校の英語の講師だったとき



学生時代、夜の学生寮で何やら物思いに…

共産党だから

市民要求実現に16年ですか。

熊谷 がんばれたのは私が共産党だということが大きいです。

大学時代に沖縄返還や学費値上げ反対の運動を通じて日本共産党の先輩たちと知り合いました。この人たち、自分の利益だけでなく、みんなの利益のために汗を流すことにとっても献身的だったんですね。これは魅力的な生き方だと思ったんです。

そして、戦争反対を命がけでつらぬいて殺された共産党員作家・小林多喜二のように、共産党という党自体の不屈さが私の心に残りました。

この2つが私が共産党に入った理由だし、私のしつこさ(笑)だと思いますか、くじけないことの源だと思います。もし共産党との出会いがなければ私の人生はつまらないものだったでしょう。

市民とともい

今の議員活動に生きてますか。

熊谷 それはもう。国保料引き下げもこども病院の人工島移転見直しも、はじめ議会にいくと圧倒的に少数派じゃないですか。でも市民の多くは違うんですね。だから、どんなに市政が動かないように見えてもねばり強く市民といっしょに運動すれば山を動かせる確信があります。

熊谷あつ子プロフィール

1952年大分県生まれ、福岡女子大学卒●高校英語講師をへて、2007年福岡市議会議員に初当選。現在1期目。第2委員会(福祉・教育・こども)●新日本婦人の会西支部副支部長、ふくおか健康友の会副会長など歴任●家族は夫(熊谷芳夫。新室見診療所所長)と2男1女●趣味はカラオケ、五行歌●西区石丸在住。